

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	14	議員名	三島明	(個人質問)	(一問一答方式)	質問日(予定)	6月25日
質問項目		質問要旨					
1	市長の考える松江市の様々な課題とは	(1) 上定市長も我々議員も、選挙戦の中で松江市の課題を訴え、思いを訴え、支持を得て議席を与えていただいた。市長も「松江市を取り巻く様々な課題を解決していく」と訴えてこられた。市長が考える松江市の課題とは何か。そしてその解決策をどのように考えているのか伺う。					
2	松江市の教育について	(1) 青木教育長が就任された。青木教育長は、こども子育て部長として、これまで長年保育行政に携わり、乳幼児期からの体験や学びの大切さをよく知った方である。就任の抱負と、これからの松江の教育への思いを伺う。 (2) 松江市の優秀な先生方の持てる力を最大限に発揮していただくように、教育の大胆な見直しを図る時である。この度、教育長の経験がある藤原前教育長が、任期の途中にもかかわらず副市長に就任した。これは教育長の立場ではできなかったことを、副市長という立場で前進してもらいたいという教育改革に重きを置いた人事ではないかと思うが、松江市の見解を伺う。 (3) 図書館長には須山前交通局長を、そして業務委託先であるスポーツ文化振興財団理事長には講武前副市長を配置され、松江市の意気込みを感じるが、どういう中央図書館を目指すのか、教育委員会のビジョンを伺う。					
3	松江市の農業について	(1) ここ数年の松江市の農業者の人数、平均年齢、新規就農者の数、その推移について伺う。また、松江の農地の面積、そのうち水稻の面積とその推移について伺う。 (2) 農業者は自然を守り、里山を守っている。農地は一度荒らしてしまうとすぐには元には戻らないと言われるが、松江市の中でも耕作放棄地を目にすることがある。耕作放棄地は近年増加傾向にあるのかどうか、松江市の傾向を伺う。 (3) 2024年3月までの期限で、国主導で取り組んできた「地域計画」である。これを作成する過程、または作成して見えてきた松江市の農業の課題は何か伺う。 (4) 松江市内でも、一定のまとまった平地では、効率化の観点から大規模経営化し、その良さもある。一方で、一定のまとまった土地を確保できないところなどは、中規模、または小規模とならざるを得ない。中規模農業、小規模農業が行われている農地が荒れるということは、即、集落の維持機能の低下、やがては集落の崩壊につながる懸念がある。松江市独自として、こういった中規模農業者、小規模農業者を支えていくことはできないのか伺う。 (5) 国がどうあれ、松江市として、松江市民に松江で作った米を十分に食べていただけるように、増反を奨励・支援する取り組みが必要であると思うが、松江市の考えを伺う。					
4	松江市ガス事業の譲渡について	(1) 令和6年10月から譲渡先の公募が開始された。地元事業者にマイナスの影響が出ないように、事業の継続、取引の継続など、公募条件の検討に当たり、地元事業者とはどのようにして、どのような話し合いがなされたのか伺う。 (2) 公募する際の条件として、地元事業者の意見を「松江市ガス事業譲渡先選定委員会」に伝えた結果、事業継続、地域経済への配慮について盛り込まれた公募条件となっていたのか否か、市の見解を伺う。					

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	15	議員名	原田守	(個人質問)	(一問一答方式)	質問日(予定)	6月25日
質問項目		質問要旨					
1	令和7年4月松江市長・市議会議員選挙の投票率低下について	(1) 投票率が52.12%と、前回2021年より8.12%下落したこと(2005年の合併以降、過去最低)について選挙管理委員会の見解を伺う。 (2) 投票所までの距離について伺う。投票所までの距離の平均、最も遠い方は何kmかを伺う。それについての見解を伺う。 (3) 浜田市は、「移動期日前投票所(車)」を導入しているが、この「移動期日前投票所」について具体的な運用を伺う。 (4) 浜田市は、この取り組みを検証し、どのように評価しているか伺う。 (5) 「移動期日前投票所」は、高齢化が進む地域集落にとって有効な手段と考えるが見解を伺う。 (6) 主権者教育の定義について伺う。 (7) 松江市での、これまでの主権者教育の取り組みについて伺う。 (8) 令和5年島根県知事選挙及び島根県議会議員選挙において、県立大学浜田キャンパスに期日前投票所が設置されたが、結果と考察を伺う。 (9) 先日、群馬県太田市長選挙において行われた「子ども選挙」等、各自治体で、様々な取組があるが、松江市の今後の取組について伺う。因みに、議場の見学(特に小中学生)は行われているか伺う。 (10) 今回「選挙公報」の配布方法が変更された。以前は、町内会自治会連合会のご尽力により各戸配布、そして郵便局によるポスティングを経て、新聞折り込みに変更されたが、その理由と結果について配布部数・経費・配布日時を比較の上、投票率への影響を伺う。因みにこの度の参議院選挙では、「選挙公報」は告示から何日後の折り込みとなるか伺う。 (11) 7月に参議院選挙が予定されているが、新たに投票率アップの施策があれば考えを伺う。					
2	家庭用ゴミ袋について	(1) 昨年度、11月定例会での一般質問において、家庭用ゴミ袋についてSDGsを重要視する観点から、正しい分別、リサイクル率向上を目指し、さまざまな問題点を挙げ、改善、それに伴うデザイン変更を要望した。また、「レジ・ゴミ袋」として、スタイリッシュなデザイン変更も要望したが、具体的な変更内容、市民の皆さまの受け止めを伺う。					
3	小型充電式(リチウムイオン)電池の分別回収について	(1) 4月15日、小型充電式電池(リチウムイオン蓄電池)等の適正処理に関する方針が通知されたが、通知に至る経緯、通知の主旨、具体的な内容を伺う。 (2) 当市においてのこれまでの取り組みと回収状況を伺う。 (3) 今回の通知を受けての、市報への掲載等、市の取り組みを伺う。					

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	15	議員名	原田守	(個人質問)	(一問一答方式)	質問日(予定)	6月25日
		質問項目	質問要旨				
4		令和4年3月改定の「松江市一般廃棄物処理基本計画」について	(4) 家庭ごみ収集現場における、リチウムイオン蓄電池が起因する事故について伺う。当市において、具体的な事例及び件数の推移、人的被害の有無、合わせて、市の受け止めと対応を伺う。 (5) リチウムイオン電池に起因する事故の重大性から、市民の皆さまへの更なる周知徹底のみならず、新たな対策も必要だと考える。ステーション回収や拠点回収の手法は自治体ごとに工夫が見られ、とても有効な手段と考える。他の自治体同様、単独での回収が望ましいと考えるが、松江市としての方針を伺う。 (1) 令和4年3月改定の「松江市一般廃棄物処理基本計画」について、計画の概要を伺う。定められた目標に対しての現状、今後の取り組みを伺う。				

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	16	議員名	佐々田慎吾	(個人質問)	(一括方式)	質問日(予定)	6月25日
質問項目		質問要旨					
1	障がいのある児童、生徒への支援等について	(1) 松江ろう学校の通級指導教室が松江市立皆美が丘女子高校などが対象になっていない理由について伺う。 (2) 県立高校以外でも通級指導教室が利用できるよう取り組めないか伺う。 (3) 松江市でディスレクシアの児童、生徒がどれくらい学校に在籍していることを把握しているか人数等伺う。 (4) ディスレクシアのある児童、生徒の早期発見や支援について、現状の取り組みを伺う。 (5) 周囲がディスレクシアの理解を深めるための取り組みについて伺う。					
2	フレイル予防について	(1) 耳鼻科医、認定補聴器技能者との連携を深め、聞こえに不安がある方の聴力検査や適切な補聴器装用の推進及び本市での補聴器購入助成導入について伺う。					
3	介護職、保育士への処遇改善について	(1) 介護職、保育士をリスペクト（尊敬・敬意・尊重）する街づくりについて伺う。 (2) 重点支援地方交付金を活用した介護職、保育士の処遇改善について伺う。					
4	松江市再生可能エネルギー発電事業と地域との調和に関する条例案について	(1) 比津町のメガソーラー発電所建設も条例案の対象になりうるか伺う。 (2) 「市長が認めるときには、文書の交付などによる周知で説明会に代えることができる」とは、どのようなケースが想定されるのか具体例を伺う。 (3) 住民説明会等においては、事業者側も松江市も分かりやすい言葉で説明することが、理解しあう第一歩ではないか。専門的な言葉が理解しにくいとの声があることについて所見を伺う。					

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	17	議員名	石倉聡之	(個人質問)	(一括方式)	質問日(予定)	6月25日
		質問項目		質問要旨			
1		地域公共交通について		(1) 今年度中に「地域公共交通利便増進実施計画」を策定する予定だが、市民の移動手段を守る視点、市民の生活をどのように支えていくのかの観点から以下の内容を伺う。 ア この計画策定により市民・利用者にとってどのような効果があり利便性は向上するのか伺う。 イ 松江市公共交通利用促進市民会議をはじめ事業者間での協議やプロジェクトチーム内で議論を重ねられたと思うが、実際にどのような意見が出され、また、その意見を計画策定にあたりどのように反映するか伺う。 ウ 路線の再編に合わせ、フィーダー路線と幹線路線を接続する交通結節点での待合環境の整備について令和6年11月定例会において三島明議員が質問されているが、その後の進捗状況と、実施にあたり課題などあれば伺う。			
2		松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」の推進について		(1) 職員が新たなアイデアや改革的な取り組みに挑戦できる風通しが良い組織風土づくりが重要だと考えるが、市として、現場職員の創意工夫を引き出すためにどのような仕組みや取り組みを講じているのか伺う。 (2) 将来ビジョンの実現には、持続可能な職員の働き方が必要であり、過重労働や精神的負担を軽減する体制(相談窓口・ハラスメント対策)やワークライフバランスを確保する体制は構築できているのか伺う。			

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	18	議員名	樋野伸一	(個人質問)	(一括方式)	質問日(予定)	6月25日
質問項目		質問要旨					
1	国民健康保険について	(1) 自営業者や年金生活高齢者、非正規雇用の労働者等が加入する国民健康保険は皆保険制度の最後の砦ともいえる健康保険制度です。しかし高すぎる保険料が被保険者の生活をひっ迫させ、滞納者への制裁も厳しく一層の困難をもたらします。松江市の国保料は年間所得200万円の4人家族で約33万円と生活を圧迫するものとなっています。保険料が高いという認識はありますか。所見を伺います。 (2) 高すぎる保険料は引き下げるべきです。基金を取り崩せば1世帯当たり数万円の引き下げが可能です。高すぎる保険料の引き下げを求めますが所見を伺います。 (3) 保険料を1年以上滞納し「保険料を支払えない特別な事情」が無いと判断されると事実上の保険証の取り上げである「資格証」が発行（特別療養費の支給）されています。市民の医療を受ける権利を著しく抑制するこれらの対応は止めるべきですが所見を伺います。 市民の命を守る事は自治体の使命です。特別療養費の支給対象世帯は生活に困窮していることも考えられます。滞納者に対する丁寧な対応、寄り添った対応が必要です。病気やケガで必要な時に医療機関を受診できているか等を含め生活実態を丁寧に把握することを求めますが、所見を伺います。					
2	「無料低額診療事業」について	(1) 低所得の生活困窮者に医療を提供する「無料低額診療」がございます。「無低診」は経済的に困窮し医療機関受診が難しい市民へ無料又は低額な料金で診療を行う事業です。私は41年医療従事者として勤め、実際に、無保険者の方の受診が遅れ亡くなった事例も見してきました。 昨今の物価の高騰、経済情勢の悪化で年金は僅かに増額されましたが生活実感の増額感はありません。市民の生活の困難が広がっており「無料低額診療」の重要性は高まっています。松江市内における「無料低額診療事業」を実施している医療機関及び利用状況を伺います。 (2) 「無料低額診療」を民間の医療機関に任せただけでなく自治体病院である松江市立病院でも実施すべきだと考えますが所見を伺います。また「無料低額診療」にかかる費用は各医療機関の持ち出しによって賄われています。診療報酬が低く抑えられるなか多くの医療機関は厳しい経営を強いられています。実施している医療機関の善意に任せただけでなく、行政からの支援が強く求められています。「無低診」に直接支援することを求めますが所見を伺います。					
3	松江市の医療について	(1) 医療機関が病床を削減すれば1床あたり約400万円を給付するという「病床数適正化支援事業」が進められようとしています。物価高騰や賃金引き上げに対応出来ない現在の診療報酬のもとで経営が困難となっている病院からすると50床減らす場合には2億円が支給されることを考えれば思わず飛びつくような事業です。各地で申請が殺到し、全国で5万床に上ると報じられています。 単に病床が削減されるのであれば、地域の医療体制に大きな影響が生じ地域医療の崩壊につながりかねません。病床削減に誘導するのではなく、診療報酬の抜本的な引き上げをはじめ、どの医療機関に対しても緊急的支援が行われるべきであると考えますが所見を伺います。 (2) 市民の命を守るため、医療機関の深刻な経営難に対して市として水道光熱費への支援や物価高騰対策など直接支援を求めますが所見を伺います。					

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	18	議員名	樋野伸一	(個人質問)	(一括方式)	質問日(予定)	6月25日
質問項目		質問要旨					
4	介護施設の現状について	(3) 今年4月、松江市内の病院が夜勤看護師の不足を理由とし40床の病棟を休止することが報じられました。看護師の確保が出来ないことが原因です。看護部長からは「努力はしていますが、特に夜勤が可能な看護師が確保出来ない」また「人材派遣会社を利用せざるを得ない状況が続いているが、業者に支払う幹旋料が以前は年収の30%程度だったものが50%に値上げされ負担が大きく利用できない状況」、看護師確保に対し大変な困難がある状況をお聞きしました。松江市として看護師確保に対して強力な支援を求めますが所見を伺います。 (1) 3年に一度の介護報酬改定が2024年4月に行われました。本体で1.59%、水道光熱費の高騰対策を含めると2.04%のアップです。しかし訪問介護基本報酬が削減されたこと、物価の高騰に全く対応できていないことから、介護や訪問介護、訪問リハビリ、介護医療院等実施している市内の事業所からお話を聞きました。関係者からは「経営的にもとても厳しく、昨年は通所リハを休止し、今年4月から1か所デイサービスを休止。訪問介護では離職者が続き残ったのは65歳以上のスタッフだけとなった。介護医療院では夜勤スタッフを看護師、介護士それぞれ1名でやっている。これでも利益が出ない」などと悲痛な訴えがありました。 必要な介護サービスが提供できる環境を整備し、老後も安心して暮らせる松江市を実現するためにも、介護事業所に対し強力な支援が求められます。松江市として実態を丁寧に把握するために、介護事業者から直接状況を聞き取る場を設けるとともに、介護事業所に対し、財政支援など実効ある施策を求めますが所見を伺います。					
5	原発問題について	(1) 福島原発事故から14年3か月経過しましたが未だ復興が終わりません。地震、津波、原発事故史上初の3重災害が福島県の復興を遅らせています。私は2011年原発事故翌年から毎年福島訪問を行い様々な人に話を伺い復興も見てきました。福島県民の命と暮らしを守るため既に5兆円を超える費用と延べ10万人を超える人員を投入し除染を行っていますが、未だに県内で約3万人の県民が帰還できません。賠償費用と除染と廃炉費用22兆円では納まらないのは明らかです。昨年から実施した党の市民アンケートでは49%の市民が稼働に反対。医療、福祉の現場からは「とても避難など出来ない」との声が寄せられています。原発の無い安全な松江こそ実現すべきと考えますが所見を伺います。 (2) 中国電力はこの20年間で8度の火災を起こすなど、適切な管理体制など全くできていません。多くの市民は中国電力に対し、強い不信感を持っています。松江市は中国電力と「安全協定」を締結しています。第12条には原子炉の停止を含む「適切な措置の要求」（適切措置要求権）が規定されています。中国電力の運転の安全性に疑念が生じ、適正運転が担保できない際には適切措置要求権を躊躇なく発動し原子炉停止を決断すべきです。市民の命を守る決意を伺います。					

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	19	議員名	吉岡麻美	(個人質問)	(一括方式)	質問日(予定)	6月25日
		質問項目	質問要旨				
1		AIデマンドバス 「まつえのーと」 について	(1) 「AIデマンドバスを利用して公民館に参集する体験会の実施や、利用促進協議会で、試乗、予約体験会を開催する予定である」と言われていたが、これらの対策で市民の方の反応はどうだったのか、そして利用状況に変化があったのか伺う。 (2) AIデマンドバスで隣接する町への結節点について市の考えを伺う。				
2		病児保育について	(1) 病児保育の施設がない地域について、施設開設を引き受けてくれるような保育所を探すことや、町の病院やクリニック等と連携して子育て世帯が安心して預けることができる環境を整備すべきと考えるが、見解を伺う。 (2) 松江市における病児保育の預かり年齢の拡充について見解を伺う。 (3) 多子世帯の病児保育の支援について見解を伺う。				
3		学校の防犯対策および緊急事態での連携について	(1) 松江市として学校内の不審者に対する防犯対策について見解を伺う。 (2) 学校での緊急事態が起きたときの連携について見解を伺う。				
4		搾乳マークの表示について	(1) 安心して搾乳ができる環境づくりとして、松江市内の公共施設に搾乳マークの掲示を推進することについて見解を伺う。 (2) 搾乳が必要なお母さんたちがいるということを、市民のみなさんの理解が進むよう、SNSやホームページ等での周知が必要と考えるが、見解を伺う。				

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	20	議員名	佐野みどり	(個人質問)	(一括方式)	質問日(予定)	6月25日
質問項目		質問要旨					
1	看護師不足について	(1) 医療・介護・保育・福祉に働くケア労働と言われる人たちの人手不足は深刻である。長時間過密労働の改善や処遇改善が進まずにさらに退職者が増えるという悪循環に陥っている。 松江市でも、看護師不足による病床の休止・出産できる医院の廃業・訪問介護事業所の閉鎖などもあり、このままでは医療介護崩壊が進むのではないかと不安が市民の皆さんから寄せられている。 社会保障切り捨ての国の政策が進む中で、今こそ「住民福祉の増進」という自治体の役割を果たすため、そして安心して住み続けたいとの市民の願いにこたえるための施策が必要と考える。 日本医療労働組合連合会の2024年夜勤実態調査では厳しい夜勤実態が報告されている。 島根県の県内職員における2024年看護職員実態調査でも、松江圏域の看護師数は長年にわたって、必要数に届いていない状況が続いていることから、松江市内の病院も例外ではないと考える。 医療現場からは「まるで戦場のような忙しさに疲れ果てる毎日」「他部署への応援は情報も少なく、これで本当に安全が守られているか心配」「ナースコールにすぐに駆けつけることもできない」「長時間夜勤で帰宅時はふらふら、自分の健康も心配」「今でも忙しいのに災害や原発事故が起こったら対応できるとは思えない」などの声が寄せられている。 この立場から3点伺う。 ア 市立病院での看護師不足の現状はどのような状況か伺う。市として他の民間病院などの看護師不足を具体的にどのように把握し認識されているか。そこには現場の声を聴く機会が含まれているか伺う。 イ 今現場で頑張っている看護師が辞めずに働き続けられるよう、夜勤協定・インターバル協定などを結び、労働環境の改善が急がれるが、各病院への援助はどのようになされているか伺う。 ウ ひとたび原発事故が起これば、日常的に人手不足の中、患者の安全を大前提とした避難が本当に可能なのか、計画通りに実行できるかはなはだ疑問である。屋内退避に関しても問題点が多く実用的な手順はまだまだこれからのようだ。実効性のある避難計画が立てられていない今、島根原発は停止すべきと考えるが、見解を伺う。					
2	介護保険制度と介護の労働環境改善について	(1) 介護保険制度開始から25年経過した。松江市では約12,000人が要介護・要支援認定を受けている。しかし介護保険料は保険導入時の2倍となり(3,140円から6,554円)その後の制度改悪・介護の人材不足が重なり、働く現役世代が介護のために仕事を辞める「介護離職」の問題も出ている。 介護現場からも利用者からも、低い賃金を引き上げ介護人材を増やしてほしい・必要な介護サービスが受けられるよう介護保険制度を充実してほしいなどの要望が寄せられている。 そこで3点伺う。 ア 介護現場の夜勤回数には法的な制限はなくそのため劣悪な条件で働かざるを得ない状況がある。松江市の介護職員の夜勤実態はどのように把握されたか伺う。 イ 介護サービスに欠かせないケアマネージャーの不足が言われている。松江市で働くケアマネージャーの人数と一人当たりの担当件数の過去5年の動向と、一般社団法人日本介護支援専門員協会などから寄せられる現場からの意見などあれば伺う。					

一般質問通告事項

令和7年6月17日
第4回松江市議会定例会

順序	20	議員名	佐野みどり	(個人質問)	(一括方式)	質問日(予定)	6月25日
質問項目		質問要旨					
3	マイナ保険証と国民健康保険証の発行停止について	ウ 松江市が行った介護人材の確保等に関する実態調査では、必要だと思う行政の支援では「人材の確保」の点でも「人材の育成や定着」でも最も必要とされるのは、「介護報酬の見直し」でともに8割を超えている。国へ介護報酬の早期見直しと国庫負担割合の増を求める必要がある。市の見解を伺う。 (1) 紙の保険証の発行停止から6か月が経過し、マイナ保険証の利用率は全国で28.65%にとどまっている。本人確認トラブルや暗証番号への煩わしさ、情報の流出への不安など様々な理由からマイナ保険証を使いたくない人も多い。医療機関側からもマイナ保険証でトラブルがあり負担感を感じる、健康保険証の復活とマイナ保険証との併用を望む等の声も聞かれる。厚生労働省は75歳以上への資格確認書の一斉送付を決定した。国が強引にマイナ保険証を進めた結果、制度のほころびが露呈し対応を迫られた結果だと考える。しかし、74歳以下の人たちにはマイナ保険証を持っていない人だけに資格確認書が発行されることとなり、マイナ保険証を持っておられる方には発行されないため、医療機関の窓口などでのトラブル多発など、混乱することが懸念される。以下3点を伺う。 ア 紙の保険証発行停止から6か月が経過し、現状での問題点をどのように把握されているか伺う。マイナ保険証の保有率と利用率、とりわけ74歳以下の方の保有率と利用率を伺う。 イ 混乱が予想される中で、「マイナ保険証の有無とは別に、保険資格が確認できる」など、市民が誰一人として困ることがないように安心できる対応が必要である。松江市でもマイナ保険証の有無にかかわらず、資格確認書を交付することを求めるが、考えを伺う。 ウ 今まで期限が切れる前に自動的に送られていた紙の保険証とは異なり、マイナ保険証の更新は定期的に一生続く。更新忘れ・代理人が手続きする際の煩雑さなどが懸念される。マイナ保険証は強制ではなくあくまで任意であること、そしてマイナ保険証を持っていない人は資格確認書で今後も保険診療が受けることができることは、再度周知徹底が必要と思われるが、お考えを伺う。					